

大妻女子大学茶道部

平成二十三年度 雪待茶会

茶道部だより

※第八号

※正しくは『第九号』です。



ごあいさつ

本日はお忙しい中、私共の雪待茶会にお越しくださいまして誠にありがとうございます。

靖国神社での茶会は本年で三十五年目を迎えます。このような場所で茶会が出来る事を部員一同、大変誇りに思っています。共に、先輩方から受け継いだ伝統をこれからも継承し日々精進して参りたいと思っております。

2011. 12. 11

【発行】

大妻女子大学
茶道部

【責任者】

増川 彩織
大崎 美紀

壁に掛けたカレンダー

も最後の一枚となり心急ぐ気分ではございますが本日は皆さまに、くつろぎと心温まる茶をもてなす事が出来たら幸いです。

雪待係 大崎美紀

雪待茶会

「雪待茶会」とは、年に一度、靖国神社境内のお茶室をお借りして催すお茶会です。「雪はまだかな」と待っているこの季節に合わせ、昭和五十一年に「雪待茶会」と呼び名がつき、今年で三十三年が経ちます。雪待茶会は立派なお茶室で行われ、文化祭などのお茶会とは違った雰囲気があります。

今回のお茶会には、洗心亭にて本学茶道部が広間と立礼を、行雲亭にて大妻中高等学校の茶道部が広間で、本学茶道部のOGが立礼で、それぞれお茶席を設けています。また、今回は点心も付けさせていただきました。行雲亭に休憩所も設けておりますので、ごゆっくりお過ごし下さい。

本年は部員が少ない中、みんなで協力し合い、ここまでの伝統を大切にし、お客様に喜んでいただけるお茶会をと、この日まで頑張ってきました。皆様にお楽しみいただけましたら幸いです。

先生方からのお言葉

私たちが日頃お世話になっている先生方に、大変ご多忙中、執筆していただきました。心温まるお言葉をいただきました。誠にありがとうございます。

千代田校師範

浅賀宗容

千利休は茶の湯を次のようにも表現しています。

「夏はいかにも涼しく、冬はいかにも温かくなるように、炭は湯の沸くように、茶は服のよきように、これにて秘事はすみ候」

（お点前、茶道具、茶室、茶庭、の美しさと心（こころ）、すべてが大切なことと説いています。）茶の湯は窮屈なもののように思われがちですが、基本はおいしいお茶を点てて客をもてなし、楽しんでいただ

くことに尽きると思います。

茶の湯に関わってからは、私も数十年経ちますが、まだまだ知らないこと多く、もっと知りたい好奇心がふつふつと沸いてきます。茶の湯は年数を重ねるごとに奥の深い世界だと思われています。奥をきわめたいがほど深い内容を持つ茶の湯であればこそ、理屈を超えて、茶の湯が人々を惹きつけるのだと思います。

先日、私は関東大学茶道連合・同窓生有志の方々の同窓茶会に参会させていただきました。関茶連が解散され三十七年が経ち、十五回目の久々の茶会と伺いました。往年の青年たちは今、髪には白いものが入りつつも、風格を携え、思いの込められた茶席を設けられました。（私たちの大先輩も参加されていました。）

薄茶席では心を込めた

お道具の他に、日本名水百選の中から、「大和水」をご用意され、濃茶席では、この日のために、銘「友」とあるお作りの茶碗まで

いただいたてきました。お取り寄せの生菓子「初霜」の銘にふさわしい霧のかかり具合など席主の思いがいつばいでした。私にとつてめずらしい煎茶席も楽しませていただきました。小さなお道具ひとつひとつが愛らしいものでした。どのお席も席主のお茶に對する心遣いを感じました。

お茶会に参会して、まさに茶の湯を極めている、と感心致しました。そして三十七年の歳月は茶の湯のころも深められたのでしょうか、それを茶席へ表現されたことの素晴らしさを思いました。この日、私は一日中、興奮していました。

我が茶道部も先輩方に築いていただけて今日があります。

茶の湯の心を大切にしたいと思います。

大妻女子大学教授

茶道部顧問

大森正司

薄茶仕立て、濃茶仕立て、茶室の中で静かに味わう中、お茶事として利用する中で、お点前の先生方に、新茶と秋出し新茶を比べて味わっていただきました。すると一様に「秋出し新茶」の方が美味しい、との評価でした。伺ってみると、新茶はどことなく口に含んだ時に、舌を変に刺すような刺激がありますが、秋出し新茶にはそれが見られない、とのことでした。大変興味深く感じましたので、ではこの「新茶」と「秋出し新茶」の何が異なるのか、何が要因なのかを調べてみました。

「新茶」と「秋出し新茶」を比べて、先ず茶成分を調べてみました。ポリフェノール、カフェイン、アミノ酸などの含量は、いずれも秋出し新茶の方が約10%減少しておりました。又、クロロフィルとシユウ酸含量、DPPHラジカル補足活性を調べてみますと、秋出し新茶の方が僅か

に黒っぽく見え、シユウ酸含量、DPPH補足活性も10%ほど減少しているのが観察されました。

結論的に、「新茶」と「秋出し新茶」を比べてみますと、「秋出し新茶」の方が美味しいという、その美味しさの理由は今一つですが、しいていえば、全体的に成分が減少しているところから、味がまろやか・・・とか、シユウ酸の減少が舌を刺すような刺激を軽減しているのではないかと考えられます。



活動報告

【学校茶道夏期研究セミナー】

増川彩織

九月三日・四日と表千家
学校茶道夏期研究セミナー
に参加してきました。

「当たるゝ絶対いける
〜!」とポストの前でか
なりの念を込めて投函し
た甲斐がありました。

しかし、九月三日は台風
の影響により中止となっ
てしまいました。運よく四
日は台風の影響も和らぎ、
四日だけのセミナーにな
りました。

このセミナーには、表千
家茶道をされている大学
さんが全国から集まりま
す。当初、大勢の中一人で
参加していた私は不安を
抱えていましたが、皆さま
の心遣いもあり、とても楽
しく過ごすことができました。

内弟子の渡辺泰一郎先
生の講話では、他では滅多
に聴くことができないお
話ばかりで、最初から最後

まで興奮してしまいまし
た。

不審菴文庫の原田茂弘
先生からは、茶の湯の歴史
を丁寧にご説明いただき
ました。私が持っていた茶
の湯の歴史に対する疑問
が一気に晴れただけでな
く、新しい知識が増え、メ
モをとるのに必死になっ
てしまいました。

小笹晃先生からは、禅と
茶についての話をしてく
いただきました。茶の湯は
禅であり、それは臨済宗の
禅であるということ。利休
は禅の修行をし、常に心
を見つめた人です。そして、
「茶の湯の心とは何だろ
う。」と考え、茶を通して
自分と向き合いなさいと
のお言葉をいただきました。

家元見学は激しい雨の
なか行われました。今回の
見学は私にとって二回目
の見学で、雨が降るなかの
不審菴は初めてでした。至
る所に台風対策をされて
いる家元の中を見て、歴史
を守ることの大切さと大
変さを目の当たりにし、そ
の重みを肌で感じました。
渡辺先生によるご丁寧

なご説明による家元見学
はとても楽しかったです。
また、先生は、私たちにた
くさんの質問をさせてく
ださいました。

そして、最後に不審菴の
新席でお茶をいただきました。
した。

席はしんと静まり、茶室
には松風と激しい雨音、そ
して雨が石を打つ音で響
いていました。秋の訪れを
知らせる冷たく、澄んだ空
気が肌に触れ、茶碗を持っ
た手がじわりと身体に熱
を届けてくれました。

そして、先生方が心を籠
めて点てて下さったお茶
は、熱となり、私のなかの
奥底で今でも留まってい
ます。この熱は、生涯私の
なかに残るものになりま
した。同時に、この熱を胸
に生きていけると思いま
した。

私の茶道歴は高校時代
からになり、流派はご縁が
ありませんと表千家になり
ます。今、考えると、たま
たまとはいえ、表千家の茶
道をずっとすることがで
きるのも、すごいなと思
いました。今回のセミナーに
参加して、今後、表千家の

お茶をし続けていけたら
と未熟者なりに決心した
次第です。

今回のような機会を与
えて下さった家元、関係者
皆様、浅賀先生に深く感
謝しております。誠にあり
がとうございました。

